

平成28年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成28年9月2日
愛知 県

- 1 病害虫名：ブルーベリータマバエ（仮称）（*Dasineura oxycoccana* (Johnson)）
- 2 発生作物：ブルーベリー
- 3 発生地域：県内
- 4 発生確認の経過

平成28年7月中旬に、県内のブルーベリー施設栽培ほ場において、ブルーベリーの新梢先端部にウジ状の幼虫と被害が確認された。幼虫を採取し、愛知県農業総合試験場内で羽化させ、成虫を農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、本県未発生の *Dasineura oxycoccana* (Johnson) と同定された。

本種は、北米原産で、平成8年にヨーロッパで初めて確認され、アジアでは、平成20年に韓国で確認されている。現在までアメリカ、カナダ、イタリア、イギリス、韓国等で発生が確認されている。

国内では、平成27年6月に群馬県で初めてブルーベリーでの発生と被害が確認され、その後、平成28年4月に静岡県、同年6月に富山県で発生が確認されている。

- 5 本種の形態及び特徴

幼虫は体長約2mmのウジ状で、体色は白色から黄色（図1）で成熟するにつれてオレンジ色を帯びる（図2）。成虫は蚊を小さくしたような形態で体長2～3mm、触覚は数珠状で翅は支脈が少ない膜状である（図3）。

国内における生態は不明だが、海外の文献によれば、花芽や枝先の生長点を包んでいる未展開葉の隙間に5～10個（最大20個）を産卵し、約2～3日でふ化した幼虫は先端部の植物を食害する。本種はブルーベリーへの加害はあるが、その他の植物では不明である。

なお、アメリカフロリダ州北部では、1～6月にかけて5～6世代、ミシシッピ州では2～11月にかけて約11世代発生する。成熟した蛹で休眠して越冬することが報告されている。

- 6 被害

幼虫がブルーベリー新梢先端部の未展開葉を食害し、新梢先端部を枯死させる（図4）。新梢が被害を受けると枝が伸びずに分岐してしまう。なお、果実への被害は確認されていない。

- 7 防除対策

- (1) 平成28年9月2日現在、ブルーベリーにおいて本種に適用のある農薬はない。
- (2) 新梢の寄生部位を切除し、直ちに袋に入れ密封し死滅させる。
- (3) ブルーベリー施設栽培において、施設内を防根シートを覆うとともに、栽培用ポット上面部にマルチをすることで、成虫への羽化を減らすことができる。

- 8 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471



図1 新梢に生息する若齡幼虫
(体長約 2 mm)



図2 老熟幼虫 (体長約 2 mm)



図3 成虫 (体長約 3 mm)



図4 新梢被害